

植物と人々の博物館メールマガジン

第 92 号 2022 年 10 月 5 日発行

2023 年は国際雑穀年



佐野川の雑穀畑はとても良く実り、キビは 9 月 4 日に収穫し、相模湖の高橋さんのご厚意で脱穀もすみました。アワとモロコシなどは 10 月 2 日に穂刈しました。コスモスも美しく咲いています。キンモクセイの香りは街中に漂っています。収穫の秋ですね。清々しくも、うれしい季節です。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になって、一緒に博物館づくり活動をしてくださると嬉しいです。

○予定

- 1) 開館・作業予定日：10 月中に 1～2 日は開館します。
- 2) 公共の場における再公開について、試案を検討しています。
- 3) 民族植物学ノオト第 16 号の原稿は 12 月を締め切りにして募集します。ご寄稿ください。森とむらの図書室、日本村塾、農学校などの小史を記録します。その後の冒険学校およびちえのわ農学校、日本村塾の小史も記録します。

第 15 号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

4) 電子書籍：

一部公開中の雑穀の民族植物学関係の書籍、選集 III『日本雑穀のむら』は年内完結を目指して加筆修正しています。「第 1 章北海道の雑穀文化複合、第 2 章東北地方の雑穀文化複合、補論 4. 東日本大震災と農耕」を公開し、続いて第 6 章近畿地方の雑穀文化をまとめます。選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。日本および東アジアが年内に書き終わるので、来年は続いて選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』の読み書きを進めて、順次公開します。これら 4 冊のまとめとして選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。

5) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回収録されます。 <http://www.milletimplic.net/>

6) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、長濱和代さんから『探求学習のすべて』をいただきました。ありがとうございました。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。未知の方を含めてご寄付を頂いています。ありがとうございます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。費目指定でご寄付をいただくとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

8) クリンネスへのエッセイ隔月連載は来年も続けます。今年は花の香でしたので、来年は色を話題にします。

2. 自然文化誌研究会

INCH まつりライブはコロナウィルス対応のため開催中止になりました。本年の主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。まふゆのキャンプは開催予定です。

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層 A 型の子孫、縄文人の末裔は自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいと思います。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているので、消滅させないように切にご助力をお願いします。

○報告

1) 雑穀街道協議会準備会づくり：

FAO 世界農業遺産の申請団体となる雑穀街道協議会を創るために、準備活動を進めています。日本雑穀協会、トランジション・ジャパン、家族農業プラットフォーム・ジャパンなどが、後援や協賛団体になってくださいました。現況は下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/approval22811.pdf>

2) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

佐野川の宮本さんの畑にアワ、キビ、モロコシのほか、シコクビエ、ヒエ、ハトムギ、センニンコク、陸稲は良く生育し、大方収穫しました。収穫したキビは山口さんの醸造所をお願いして発泡酒にします。栽培・加工・調理法などを学びたい方はご連絡ください、ご参加ください。時期に応じてお誘いします。簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。ご質問にはいつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

3) NPO さいはら：

9 月末に理事会で雑穀街道のことなど検討していただきました。

4) ワノサト・プロジェクト

佐野川で雑穀収穫作業をご一緒してくださいました。

5) 佐野川の宮本茶園で栽培したモロコシを脱穀、精白後に、自給農耕ゼミ（佐野川）などにご参加くださった方に、少しですが差し上げます。

○予定

1) 東京学芸大学創基 150 年記念の**雑穀発泡酒クラフトのプロジェクト**をご相談いただきました。自給農耕ゼミと一緒に、宮本さんの畑で栽培したキビとホップで藤野の醸造所に委託して醸す予定です。見積をいただいたので、学大創基と国際雑穀年記念発泡酒として企画を作成して、ご参加・寄付をお願いします。

2) 一般社団法人ジャパンスビーガン**つぶつぶ**（JVATT）

日時：11 月 23 日、準備中

場所：早稲田のつぶつぶのスペース

話題提供：

岩崎信子さん；有機農業の里埼玉県小川町で自然農の雑穀畑を耕し、その過程をワークショップとして運営しながら未来食のセミナー講師、そして料理コーチとしてつぶつぶ料理教室を運営

木俣美樹男；インドの雑穀研究コーディネーター、A. シタラムさん一家との交友や FAO 世界農業遺産への提案のことなど

下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

なお、45 年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/milletsn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が 90 歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023 年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf などは下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。

共通申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

○報告

第7回自給農耕ゼミ（小金井） 14名参加

日時：9月25日（日）、場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

プログラム：心の基盤を創る自然体験、生活体験について話し合いたいしました。

話題：冒険遊び、野良遊び、プレーパーク

話者：邦永洋子さん（NPO法人こがねい子ども遊パーク）

第11回自給農耕ゼミ（佐野川） 10名参加

日時10月2日（日）、場所：相模原市緑区佐野川、アワ、モロコシなどの穂刈り。

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記CUUESサイトにあります。

[Civic United University for Environmental Studies 環境学習市民連合大学 \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html) <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

5. OKシードプロジェクト学習会 「雑穀街道」をFAO世界農業遺産に！

山村の小規模農耕における生物文化多様性を保全する

日時：9月22日（木）オンラインで、250名以上申し込み、実際は130名ほどの参加で、雑穀街道普及会の提案を聞いていただきました。資料は下記のサイトにあります。

www.milletimplic.net/collegefores/okseedlec.pdf

~~~~~  
**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村)：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、専任、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム) ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅** (山梨県小菅村)：

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~  
写真 相模原市緑区佐野川の宮本茶園の畑



(左) 穂刈収穫したアワ、モロコシなどはさかけ乾燥、(右) コスモス畑



(左) 埼玉借金なしダイズ、(右) 津久井在来ダイズ